

研究・調査報告書

報告書番号	担当
217	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Alcohol consumption is associated with decreased risk of rheumatoid arthritis: results from two Scandinavian case-control study. 飲酒は慢性関節リウマチのリスクを下げる: 2つのスカンジナビア半島における患者対照研究	
執筆者 Källberg H, Jacobsen S, Bengtsson C, Pedersen M, Padyukov L, Garred P, Frisch M, Karison EW, Klareskog L, Alfredsson L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Ann Rheum Dis.2009;68: 222-227.	
キーワード rheumatoid arthritis, alcohol consumption, smoking, HLA-DRB1 慢性関節リウマチ、飲酒、喫煙、HLA-DRB1	
要 旨 目的： 喫煙や HLA-DRB1 抗原識別部 (shared epitope (SE)) を考慮し、飲酒と慢性関節リウマチの発症リスクとの関係を検討する。 方法： 慢性関節リウマチについての患者対照研究であるスウェーデンの EIRA 研究 (患者群 1204 人、対照群 871 人)、デンマークの CACORA 研究 (患者群 444 人、対照群 533 人) において、慢性関節リウマチの発症について飲酒との関連を検討した。 結果： どちらの研究においても、対照群で飲酒率は高く ($p < 0.05$)、飲酒量が多いほど慢性関節リウマチ発症のリスクは低かった (傾向性 $p < 0.001$)。飲酒者では、飲酒量 4 分位の最高位群で 40-50% の慢性関節リウマチ発症リスクの減少があった。慢性関節リウマチ患者群の中でも血清シトルリン化蛋白抗原に対する抗体陽性例で検討したところ、飲酒している場合は HLA-DRB1 SE アレル陽性でかつ喫煙している人の慢性関節リウマチ発症のリスクが有意に低かった。 結論： 飲酒は慢性関節リウマチのリスクを下げる可能性がある。慢性関節リウマチ発症に生活習慣が関与している可能性があり、この研究結果は禁煙したほうがよいという強いメッセージになり、かつ飲酒はやめる必要がない可能性があることを示している。慢性関節リウマチを予防するためのエビデンスには更なる検討が必要である。	